

(資料15) 外部研究評価結果総括表

1. 総括（外部研究評価委員会委員長のコメント）

平成19年度の外部評価に際して、本年は中期計画の開始後間もないことから、各プログラムの研究態様においても、あるいは基盤研究とプログラムとの関連など所としての全体的な体制に関しても、達成度の評価というよりは、今後の研究の遂行において留意して頂きたいことを中心に各評価委員のコメントがなされた。総体として、個別研究の質は高く、それらの成果の社会に対する貢献も高く評価されているが、個別研究を有機的にプログラム化するに際してのフィロソフィー、個別のテーマ設定などにおける国環研の位置付けなど、国内の環境研究の中核としての国環研の立ち位置をさらに高めるために考慮すべき事柄に関し、評価委員の期待の大きさが示されたものとなっている。

今後の国環研の研究活動の発展を期待するものである。

2. 重点研究プログラム、基盤的な調査研究活動、知的研究基盤の整備（年度評価）

(1) 5段階評価

	5	4	3	2	1	評価 人数	平均点
地球温暖化研究プログラム	5	13	0	0	0	18	4.3
循環型社会研究プログラム	3	15	0	0	0	18	4.2
環境リスク研究プログラム	1	8	6	0	0	15	3.7
アジア自然共生研究プログラム	1	8	6	0	0	15	3.7
社会環境システム研究	1	14	0	0	0	15	4.1
化学環境研究	3	12	0	0	0	15	4.2
環境健康研究	1	14	0	0	0	15	4.1
地球環境モニタリング等	10	5	0	0	0	15	4.7

(2) 評価の方法

外部研究評価委員全員による全体評価により評価を行った。評価に当たっては、評価軸として、①達成度（重点研究プログラム、知的研究基盤の整備）、的確さ（基盤的な調査・研究）及び②質の高さ（重点研究プログラム、基盤的な調査・研究）、貢献度（知的研究基盤の整備）について検討を行い、その結果を踏まえて総合評価を行った。

(3) 評価基準

評価は5段階で行い、それぞれの評価基準は次のとおりである。

5：大変優れている、4：優れている、3：普通、2：やや劣る、1：劣る

3. 特別研究（事後評価）

（1）5段階評価

	5	4	3	2	1	評価 人数	平均点
大陸規模広域大気汚染に関する 国際共同研究	2	6	0	0	0	8	4. 3
湿地生態系の自然再生技術評価 に関する研究	0	7	1	0	0	8	3. 9
有機物リンケージに基づいた湖 沼環境の評価と改善シナリオ作 成	2	6	0	0	0	8	4. 3
有機フッ素化合物等P O P s様 汚染物質の発生源評価・対策並 びに汚染実態解明のための基盤 技術開発に関する研究	3	6	0	0	0	9	4. 3
有害化学物質情報の生体内高次 メモリー機能の解明とそれに基づ くリスク評価手法の開発に関 する研究	1	7	1	0	0	9	4. 0
トキシコゲノミクスを利用した 環境汚染物質の健康・生物影響 評価法の開発に関する研究	4	5	0	0	0	9	4. 4

（2）評価の方法

研究内容に関して専門的知見を有する外部研究評価委員による分科会形式で評価を行った。評価に当たっては、評価軸として、①研究目的・目標の達成度、②社会・行政への貢献度、科学技術・学術に対する貢献度（環境問題の解明・解決を含む）について検討を行い、その結果を踏まえて総合評価を行った。

（3）評価基準

評価は5段階で行い、それぞれの評価基準は次のとおりである。

5：大変優れている、4：優れている、3：普通、2：やや劣る、1：劣る